

中学校 外国語科(英語) 学習指導案

指導者 久松 功周

日 時 平成 30 年 12 月 6 日(木) 第 5 限 13:20~14:10

場 所 3BHR 教室

学年・組 中学校 3 年 B 組 42 人 (男子 21 人 女子 21 人)

単 元 Lesson 2 France – Then and Now

NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition 3 (SANSEIDO)

- 目 標**
1. 積極的に話す。(学びに向かう力、人間性等)
 2. つなぎ言葉などを用いて、即興でやりとりする。(知識・技能)
 3. 本文のまとめに着目して、英語で要約する。(思考・判断・表現等)

指導計画 (全 1 時間)

第一次 つなぎ言葉などを用いて即興でやりとりをする 1 時間 (本時 1/1)

授業について

11 月から、英語を用いて即興でやりとりをする指導に取り組んでいる。即興でのやりとりの指導で起こりがちな問題点としては、生徒が英語を話すことが出来ないことによって沈黙が始まり、気まずい雰囲気がさらに話す意欲を阻害するという悪循環であると考えている。その問題点を解決するために、生徒が他者とともに「話しやすい雰囲気」をいかに作れるかに指導の力点を置いている。言い換えれば、「英語が話せなくても、気まずい沈黙を出来るだけ自然に回避する方法」の指導を行っている。この指導を行うにあたって、「言いよどみ」、「ためらい」、「反復」といった情報の意味内容はないものの、やりとりにおいて非常に重要な役割を果たしている表現やジェスチャー、そして「話す活動」における「聞き手の役割」に着目している。指導の重点が「良い雰囲気を作ること」であり、現在の段階では生徒の話す英語の意味内容の正確さや適切さといった質は求めている。この指導を通じて「きまずい沈黙を避けるスキル」を身につけさせた後に、交渉などの意味内容のやりとりが求められるような言語の使用場面での指導を行い、生徒の話す英語の意味内容の指導に移りたいと考えている。

本時の目標

1. 積極的に話している。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
2. つなぎ言葉などを用いて、即興でやりとりする。(外国語表現の能力)
3. 本文のまとめに着目して、英語で要約する。(思考・判断・表現等)

本時の評価規準 (観点/方法)

1. 積極的に話している。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
2. つなぎ言葉などを用いて、即興でやりとりできる。(外国語表現の能力)
3. 本文のまとめに着目して、英語で要約できる。(思考・判断・表現等)

本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
対話を行うスキル	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアやグループを作り、即興で英語でやりとりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉だけでなく、やりとりにおける他の表現手段も使うように促す。 ・聞き手である時の、相手の発話を促す体の向き、視線を意識させる。
リスニング	<ul style="list-style-type: none"> ・帯活動であるリスニングタスクに取り組む。 	
発音	<ul style="list-style-type: none"> ・/φ/,/ω/といった日本語の調音の仕方と異なる子音の発音を練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・口の形を再現できているかどうかをペアで意識させる。
Voice Inflection	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の音声を真似して音読練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音声的特徴を再現できているかどうかをペアで意識させる。
対話を行うスキル	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書内容について Q&A を自ら作り、ペアで尋ね合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手が正解したときの反応の仕方、また答えに詰まったときの沈黙の避け方を指導する。
要約を行う際の思考スキル	<ul style="list-style-type: none"> ・英語で要約をし、ペアで発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・要約をする際の考え方を確認し、指導する。
備考		

○実施にあたって

1. 授業者の課題意識

話すこと（やりとり）について問題提起出来ればと思っています。

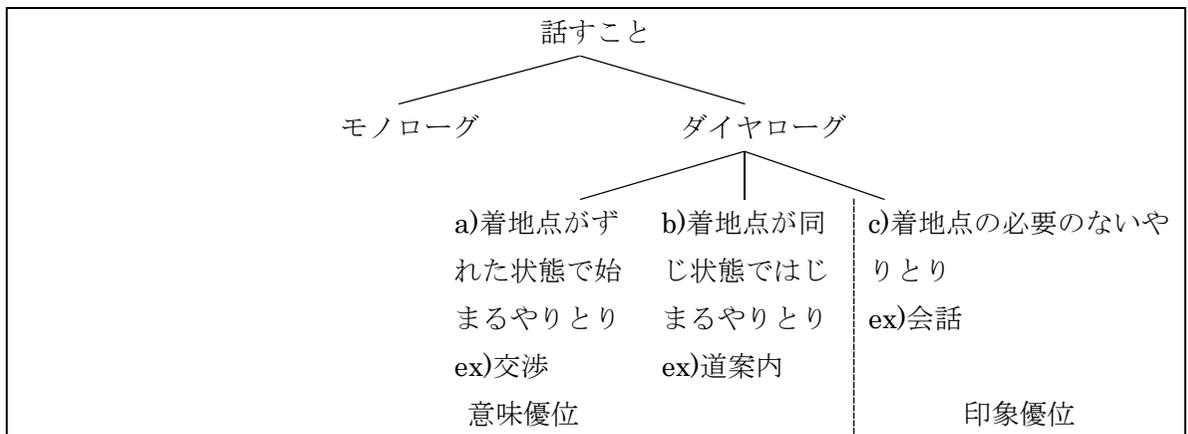
2. 話すこと（やりとり）について

「情報の印象」と「聞き手の役割」に注目することで指導改善を図っています。

2.1 情報の印象

「言葉のもっとも基本的な働きは行為遂行的(performative)なものである(Austin,1962)」という言葉、「言葉のもっとも基本的な働きは目的遂行的なものである」と言い変えて考えた際に、「ではどのように言葉によって目的遂行を行っているのか」という問いに対して、言葉による情報のやりとりは、情報の持つ「意味」と情報の持つ「印象」という2つの側面を相互作用的に使用しながら、目的遂行を果たそうとしていると考えている。例えば、道案内などでのやりとりでは情報の持つ「意味」のやりとりに重点が置かれていると考えられる一方で、あいさつや、友人との他愛のない会話などでは、そこでの言葉の意味というよりも、「共感」などの情報の「印象」のやりとりに重点が置かれていると考えられる。以上を踏まえると、人は何らかの目的を達成するために、言葉やその他の手段を通じて意味の伝達を行い、またその意味の伝達を円滑にするために、言葉やその他の手段を通じて良い「印象」を作り上げながら、やりとりをしていると考えられる。即興で話すことの指導の際に、「言葉が出てこず沈黙が生まれ、気まづくなってもっと喋りにくくなる」という問題点がある。本時ではその解決にあたって、後者の「印象」に着目して指導をしている。

2.2 「話すこと」の整理



豊田(2017)をもとに授業者作成

指導の見通しとして、本時ではc)にあたる指導をしており、ある程度「良い雰囲気」でのやりとりが出来るようになってから、a)の交渉など、意味のやりとりに重点が置かれる活動に移行することを見通しとしている。

○研究協議より

- ・会話をつなぐ表現の練習をより体系的にできる指導展開の検討